

令和4年度 新潟市農業活性化研究センター試験成績書

研究課題	早期成園化，省力化が可能なカキ「平核無」のV字ジョイント栽培の検討
背景・ねらい	本市カキ産地では栽培者の高齢化と高樹齢化等により低生産園の顕在化している。そこで，経営の安定化，園地の円滑な継承を促す簡便かつ省力的で早期成園化が可能な栽培技術の導入が望まれている。
担当者名	鍋田 慎介 山澤 勉
研究期間	2020年～（継続3年目）

1 目的

省力化と早期成園化が可能なV字ジョイント栽培について生育収量等を継続して調査を行い，その現地適応性について検討する。

2 方法

(1) 試験場所

新潟市農業活性化研究センター 露地ほ場 埴壤土

(2) 供試品種等

平核無（2020年2月12日植え付け，同3月6日ジョイント接ぎ木）

4ユニット，6樹/ユニット

(3) 耕種概要

ア 栽植様式：V字ジョイント栽培

主枝高（ジョイント部地上高）60 cm，側枝上向角 60 度，列間 3.5 m×株間 1.0 m

イ 施肥等

年間肥料成分（kg/10 a）：N:P₂O₅:K₂O = 5.0 : 3.0 : 4.0

石灰質肥料 100 kg/10 a

土壌管理：雑草草生，適宜かん水

ウ その他栽培管理及病害虫防除

果樹指導指針（新潟県平成31年3月），「令和4年度版果樹防除ハンドブック（新潟県果樹振興協会発行）」に準拠

3 考察とまとめ

樹齢3年生となり，ジョイントされた主枝の高さからおよそ 30 cm の範囲で着果が見られた。生育は旺盛で，側枝は 2.0 m を超えた時点で適宜切り戻した。

収量は 10 a 換算で 1444.0 kg と慣行の 135.0 kg の約 10 倍であり，早期成園化技術であることが実証された。

表1 生育および収量

栽培様式	品種	樹齢 (年生)	発芽期 (月/日)	満開日 (月/日)	収穫日 (月/日)	落葉期 (月/日)	推定収量/10 a [※]			果実品質調査				
							重さ (kg)	果数 (果)	果重 (g)	果皮色 (C.C)	縦径 (cm)	横径 (cm)	果肉硬度 (lbs)	糖度 (%)
慣行	平核無	3	3/30	5/26	10/31	11/24	135.0	550.0	226.9	5.2	55.0	79.7	2.4	16.6
V字ジョイント	平核無	3	3/30	5/26	10/31	11/24	1444.0	7321.3	211.7	5.2	52.5	79.2	2.7	16.3

※ 慣行は計画密植(50本/10 a)として

※ V字ジョイントは(285.7本/10 a)として

※ 果実品質調査は各10果の平均値